



グループ通信

発行／ふれディアグループ本部 編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4
朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎ 0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。日に日に寒さが増してきた今日この頃、皆さんいかがお過ごしでしょうか？寒い日が続くと、温かい飲み物や食べ物が恋しくなりますよね。さらに、お気に入りのカップや器でいただければ、身も心もより温めてくれることでしょう。しかし、形あるものはいつか壊れてしまいます。手が滑ってお気に入りの食器をダメにしてしまった経験は、多くの人があるでしょう。欠けてしまった、ヒビが入ってしまった、でも捨てるのは惜しい…という時には「金継ぎ」があります。金継ぎとは、漆を使って器を直し、金で装飾する技法のこと。金継ぎをした器は、修理した部分に美しい模様のような金のラインが入ります。昨今のコロナ禍で自宅時間が増えたことから、金継ぎにチャレンジする人も増えているとか。金継ぎは専門の職人もいる伝統的な技法ですが、カルチャースクールなどにも講座があり、誰でも気軽に始められます。自宅でできる金継ぎキットなども販売されているようですよ。ただし、金継ぎは漆を使うので、取り扱いには注意が必要です。漆に触ると手がかぶれてしまうので、注意書きをしっかりと読んで行いましょう。手軽にチャレンジしたいという人向けには、かぶれない合成うるしと金属粉（真ちゅう粉など）を使った「なんちゃって金継ぎ」も登場しているそうです。接着剤でつけた器のヒビ部分に、合成うるしと金属粉を混ぜたものを重ねて、細く線を引き、乾かすだけで完成！材料もホームセンターで揃えられます。割れてしまったお気に入りの器がある人は、この機会に、金継ぎで修理してみるのもいいかもしれません。なお、金継ぎした器は電子レンジや食器洗い乾燥機にはかけられないので気を付けてくださいね。金継ぎのような「今あるものを大切に、修理しながら使う」というスタイルはエコにもなりますから、現代的だともいえるでしょう。「漆」「焼き物」「金」などというとなんとか難しく、かしくまった印象もありますが、最近はガラスの器や洋食器を金継ぎすることもあるそう。透明なガラスに金のラインが入った器は、独特の美しさがあります。「器を割る」という失敗をプラスに変えられる金継ぎは、前向きで魅力的な技術ですよ。失敗を恐れず、今月も笑顔で過ごしましょう！

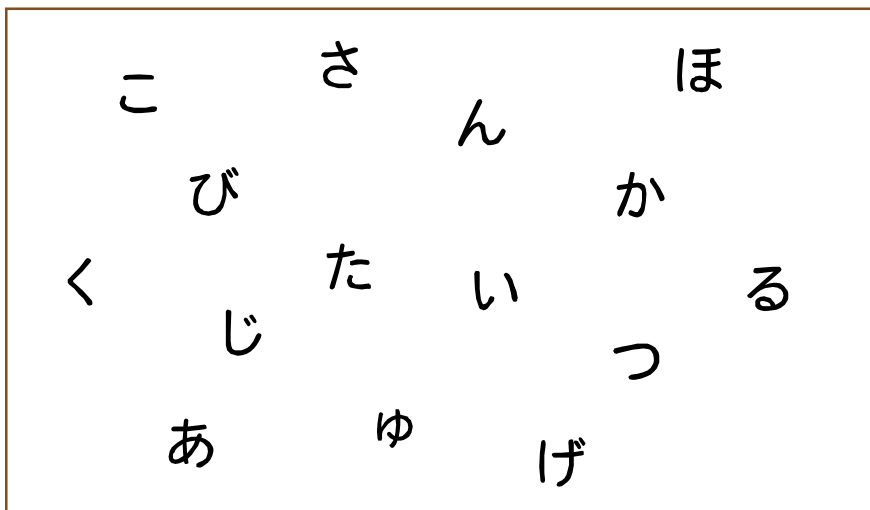
ふれディア通信編集部



“脳トレコング”で脳年齢を若く・脳を活性化!

美術館の中にある“海の生き物”とは？

美術館の中にある“海の生き物”は何でしょう？ 次のひらがなの中から探してください！



ヒント

ひらがなを線で結んでみましょう！



“解答”は他のページに載っています。答えがわかるまでじっくり考えることが脳の活性化につながります！